

小項目評価に関する検討結果について

大項目 1 教育研究等の質の向上に関する目標

平成 25 年度計画	番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
地域貢献ナンバーワン 大学への取組み	(35) ～ (43)	IV	IV	<p>各項目を順調に実施し、中小企業向けの補助金獲得支援や受託研究数の実績が順調に推移していること、大阪地区において唯一、「地（知）の拠点事業」（COC 事業）について採択を受けたこと、公開講座数について年度計画を上回り実施したこと、I-site なんばをスタートさせ、取組みを充実したことから、9 項目中 4 項目が年度計画を上回って実施したと認められる。その他、文部科学省革新的イノベーション創出プログラム COI-T（トライアル）「次世代水素エネルギー社会の実現」、中小企業の研究開発や経営力強化を支援する「ものづくりイノベーション研究所」の発足、「地域イノベーション研究センター」において府内自治体の計画策定支援に取り組んだことは評価できる。</p> <p>以上を総合的に評価した結果、自己評価のIVは妥当であると判断した。</p> <p>獣医師など専門職種に関する国家試験の合格率の目標については、高い目標に関わらず、着実に成果をあげつつある。今後も合格率の向上に対する取組みに努めることが望まれる。また、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」で採択された取組みにおいて実施した調査の結果は、産業界が求める人材像を育成するためのカリキュラムの開発など、これからの教育改善・質の向上に資する取組みにつながることを期待したい。</p>
諸機関との連携の強化	(44) ～ (53)	IV	IV	<p>大阪府教育センター附属高等学校からの特別入試制度については、同校からの入学実績があった後に再検討することとなったが、概ね各計画を順調に実施した。和泉市、対馬市との新たな産学官連携協定の締結、府内医療機関等への就職率の向上、大阪市立大学との連携事業等を多数実施した実績から、10 項目中 3 項目が年度計画を上回って実施したと認められる。また、府内の小中学校等の生徒への体験型の理科授業やセミナー等を実施し、初等中等教育の質の向上へ寄与したこと、国内唯一のホウ素薬剤の実証・評価イノベーション拠点である BNCT 研究センターを企業と連携して整備したことは評価できる。</p> <p>以上を総合的に評価した結果、自己評価のIVは妥当であると判断した。</p>
国際化に関する目標	(54) ～	III	III	<p>平成 26 年度に会館予定であった国際交流会館（仮称）の建設が遅れているが、その他の項目は順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のIIIは妥当であると判断した。引き続き、国</p>

	(56)			際交流推進体制のさらなる充実が求められる。なお、年度計画の表現が抽象的であることから、海外への留学生数など数値目標の設定を検討されたい。
工業高等専門学校地域の地域貢献等に関する目標	(77) ～ (80)	Ⅲ	Ⅲ	児童・生徒対象の公開講座について年度計画を上回って実施したほか、地域連携テクノセンターの体制が整備され、地域貢献活動の強化を推進したこと、府大地域連携研究機構URAセンターとの連携が図られたことは評価できる。各項目を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。

大項目2 業務運営の改善及び効率化

平成25年度計画	番号	自己評価	委員会評価	判断理由・コメント
法人組織の改革に関する目標	(81) ～ (82)	Ⅲ	Ⅲ	年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。各部局及び全学の基本データを継続して収集・蓄積し、「データで見る公立大学法人大阪府立大学」としてまとめて学外公開したことは評価できる。「データ棚卸しWG」については、全学を俯瞰しつつ、法人の将来像を見据えた検討をすすめられたい。
教職員組織の運営の改善に関する目標	(83) ～ (87)	Ⅲ	Ⅲ	教員業績評価制度については引き続き試行実施となり、運用に遅れが生じているが、処遇反映に向けた協議等を継続するなど、本格導入に向けた取組みに努めていることは評価できる。年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。 若手・外国人研修者など多様な優れた人材の確保策や女性研究者のキャリア形成を継続するための支援は評価できるので、事業の継続性に留意しながら、さらなる環境整備の充実を期待したい。
事務組織の改革に関する目標	(89) (90)	Ⅲ	Ⅲ	法人職員のプロフェッショナル化を図るため、研修コース数を増やすなど研修を充実させたことは評価できる。年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。
コンプライアンス・リスクマネジメントの強化に関する目標	(91)	Ⅲ	Ⅲ	教職員及び学生等、一人一人が法令の厳格な遵守に努め、高い倫理観を持って行動できるよう、意識啓発等の取組みを推進したことは評価できる。年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。

大項目3 財務内容の改善

平成 25 年度計画	番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
経常経費の抑制に関する目標	(92) ～ (94)	II	II	教員数の配置について、平成 26 年度教員数 670 名程度を基本とする配置を目標としていたが、学士課程教育の再編により、平成 24 年度以降、学域（新カリキュラム）と学部（旧カリキュラム）の両方の教育課程が並存したこと、退職年齢の引き上げ（定年延長）により、目標を達成できなかった（平成 26 年度当初教員数 686 名）ことを勘案し、評価の II は妥当であると判断した。引き続き退職者の不補充など教員の適正配置に向けた取組みに努めることが望まれる。
自主財源捻出に関する目標	(95)	III	III	外部資金の獲得額について、前年度と比較し 229 百万円増となったことは評価できる。年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価の III は妥当であると判断した。
資産の運用管理の改善に関する目標	(96) (97)	III	III	年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価の III は妥当であると判断した。
学生納付金についての目標	(98)	III	III	年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価の III は妥当であると判断した。
運営費交付金についての目標	(99)	III	III	年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価の III は妥当であると判断した。

大項目4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供

平成 25 年度計画	番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
1 評価の充実に関する目標 2 情報開示と戦略的広報に関する目標 3 大学評価についての目標	(100) ～ (105)	III	III	自己点検・評価の結果について、改善計画を作成し、全学で取り組むなど、PDCA 方式で取組みを推進していることは評価できる。年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価の III は妥当であると判断した。

大項目5 その他業務運営

平成 25 年度計画	番号	自己 評価	委員会 評価	判断理由・コメント
1 教育研究環境の整備目標 2 安全管理等に関する目標 3 人権に関する目標	(106) く (111)	Ⅲ	Ⅲ	年度計画を順調に実施していると認められ、総合的に評価した結果、評価のⅢは妥当であると判断した。